

「口之島の盆踊り伝承活動の取組」

1 学校名

十島村立口之島小・中学校

2 学年・人数

小学生（3年1人，4年1人，5年3人，6年2人）

中学生（2年1人，3年2人，）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

毎年旧暦7月7日の夜からコミュニティーセンター

(2) 発表の日時・場所

毎年8月15日（木）トンチ（殿地）及びテラ（墓地）での奉納

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

口之島の盆踊り・狂言（くちのしまのぼんおどり・きょうげん）

(2) 由来

口之島伝統の「盆踊り」は，約200年以上も前から継承されたものである。口上で受け継がれ，演じ続けられてきた。独特の言語による会話や仕草は，参加者全員が真剣に練習を重ねなければ踊れない内容である。

(3) 構成等

子どもたちによる小踊り，男性による先踊りの後，狂言が踊られる。狂言は，1番～3番までの場面があり，それぞれが物語形式になっている。トンチでは悪人による狂言が加わり，テラでは笑い話が加わる。全体的には5つの演目で構成されている。

5 保存会や地域との連携の具体

保存会は自治会が主体となり，青年団を中心に役を決め，教員も参加して旧暦7月7日の夜から練習し，本番に臨んでいる。（今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）口伝のみのため指導員が踊って見せ，台詞を一言ずつ伝え指導される。また，小学生以下が参加する小踊りは，自治会長が指導し，本番では場面ごとの合間に入る。山海留学生として本校に通っている児童生徒や，お盆に合わせて帰省した口之島出身者の子どもも参加している。

男性しか参加できない盆踊りには，裏方で活躍する女性のサポートがあり，食事や飲み物，浴衣の準備の気配りや合いの手を入れるなど，場面を盛り上げる役を担っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

島独自に開催される多くの祭りの中でも、この「盆踊り・狂言」は、最も重要で大切な行事として継承されている。児童生徒には、将来は島に帰ってきてほしい、あるいはお盆のこの時期だけでも帰ってきてほしいことも望みながら参加を呼びかけている。

盆踊りは「島の神様に奉納するものである」という島の人々の熱い思いや信仰が強く根付いており、この時期以外に演じられることはほとんどない。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

今年度はなし。

信仰が強く根付いており、この時期以外に演技は見られないのが現状である。



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

地元出身の児童生徒が少なくなっており、島民が寂しく思っていた時期もあったが、現在はくちっこ園も開設され、この時期に島にいて参加する職員もいるので、職員の子どもたちも参加することがある。（今年度は地元と職員の子どもたちが参加する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になったので参加できなかった。）また、盆踊りを楽しみに来島する島外者や観光客もいる。学校からはALTと男性職員の2名が狂言の演者として、他数名が盆踊りの踊り手として参加を予定していた。来年度は行われることを望んでいる。